




令和
平成 4年10月 7日

(会派名) 政志会
(会派代表者) 村井 孝彦 殿

(会派名) 政志会
(氏名) 若谷 修治

調査研究, 要請・陳情実施報告書

下記のとおり実施したので報告します。

1. 期間  4年 9月17日 (土曜日) から
平成 4年 9月17日 (土曜日) まで
2. 視察先 梶原町立図書館
(要請・陳情)
3. 参加議員名 村井 孝彦、若谷 修治

4. 調査研究, 要請・陳情の概要

・「雲の上の図書館」を設置するまでの経緯と目的

2018年5月26日オープンした図書館の設置目的は、「小さな拠点ゆすはら」で楽しく生きる仕組みを作るための6つの柱のうちのひとつで、自信あふれる梶原人を育てるまち・生涯学習まちづくりを推進。町内どこでも本が読める場所づくり、知識の共有の場としての図書館をつくることである。

梶原町には公民館図書室のほか図書館はなかったので、「ゆすはら丸ごと図書館」構想が第六次総合振興計画に盛り込まれた。「ゆすはら丸ごと図書館」構想とは、まち・ひと・しごと創生プロジェクトのひとつで、町全域を「森の中の丸ごと図書館」として位置づけ、町内で本が廻る仕組みを生み出し、本が町内を廻ることで人と人を結び、絆をつくり、互いの知識や情報の共有を図ることで人づくりに繋げるものである。2014年に「人・本・文化をつなげる架け橋」となるわくわくする図書館をコンセプトとした図書館の建設が決まる。

図書館の建築はプロポーザルを経て、梶原町にゆかりのある隈研吾氏による。町産材をふんだんに使い森の中の読書空間を表現したユニークで美しい設計となっている。2015年6月～2016年10月の設計期間、2016年11月～2018年2月の施工期間を経て、2018年3月31日落成、同年5月26日オープン。

・館内施設

館内の本棚は独自分類によるユニークな本棚を実現。海洋堂によるオリジナルジオラ

マを5つ設置。教育委員会事務局、図書館事務室、会議室、多目的ルーム、カフェ、ボルタリングスペースあり。

・現在の蔵書冊数

約6万冊、雑誌52タイトル、新聞11部

・財源及び予算

建設時費用財源は、過疎債及び町の基金を主に使用。図書館の建設費は、約13億円。(過疎債は約8億9千万円)資料予算は、約4,500万円。隣接する福祉施設は、約14億円。年間の運営予算は、維持費(人件費含む)は6千万円。

・運営体制

町の直営による。館長は生涯学習課長が兼務、係長1名、司書3名は正職員。その他、会計年度職員5名、短時間パート職員数名で運営。1日2交代制。

・利用状況

2018年の初年度内に入館者数10万人を超え、貸出利用登録のできる高知県、愛媛県を中心に内外から多くのリピーターや観光客など人々が憩い、本に親しむことのできる癒しの空間となっている。

・利用者の反応

町内の子どもたちの日常的な居場所として利用されている。家族連れが利用しやすいような子育て支援や定期的な様々なイベントがある。図書館を拠点として町内全域に本を届ける丸ごと図書館活動も喜ばれている。

【所感】

新国立競技場の設計者で世界的建築家の隈研吾氏の建築スタイルルーツが高知の山間地の梶原町にある事に驚きと図書館は言うまでもなく、その他自然と折り合いをつけた木造建設による町並みや落ち着いた暮らしぶりに感銘を受けた。まさに、田舎・山間地の小さなミュージアムの木造建築や町並みを目標にした国内外からの多くの観光客は見習うべき姿を得た。図書館については、生涯学習の拠点として気軽な交流や文化活動が活発に行われている。クリエイティブな図書館であり、本当にほっこり嬉しくなる施設であった。

※ 要請・陳情先は相手先の所属・職名・氏名を記入して下さい。

